

高岡中学校だより



第8号 令和2年10月1日発行
金沢市立高岡中学校
TEL291-3177 FAX291-3176

学校ホームページURL
<http://cms.kanazawa-city.ed.jp/takaoka-j/>

*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。高岡中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。



9月16日、「令和2年度 高中運動会」は、好天に恵まれ、予定通り行われました。今年は熱中症に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止との両方の対策が必要となりました。密を避けるために、各学年2時間ずつ交替でグラウンドに出て、一人一人の座席の間隔を広くとりました。応援は感染症対策ガイドラインに沿って、拍手で行いました。種目は4種目を厳選しました。いつもと違う運動会になりましたが、安全に気をつけてみんなの心が一つとなった素晴らしい大会となりました。

全力で挑む姿が感動を呼びました。皆さんの晴れ晴れとした表情が印象的です。

今年の横断幕は3年生の松井百花さんの作品です。

しばらく前から高中玄関に飾られ、機運を盛り上げてくれました。ありがとうございました。それぞれの人がそれぞれの立場で力を出し合って成功した経験は、きっと一生の宝物になります。

運動会で得た経験をこれからの学校生活に活かし、充実した2学期を送りましょう。



校長先生から賞状をもらう1年黄団の生徒達



金沢市中学校秋季新人競技大会 結果 バドミントン男子 団体AB優勝!

男子バドミントン

団体A優勝 前結心、中島圭優、五味川柊、亀田太一、前田颯斗、山邊楓雅、磯端晴生
団体B優勝 岡田倫太郎、折池祝千可、卯辰季士、向井雅吹、田中亮多、中村剛、吉岡拓馬
男子シングルス優勝 五味川柊、2位 亀田太一
男子ダブルス優勝 前結心・中島圭優 2位 前田颯斗・岡田倫太郎

女子バドミントン

団体A 2位 元屋優芽、竹内梨花、玉田未来、山下來愛、門倉更、永富文乃
女子シングルス 2位 元屋優芽
女子ダブルス 3位 竹内梨花・山下來愛

野球

準優勝 谷村玲空、中村信之介、森羅、相川鉄平、嶋修磨、仕切寛人、帆本純楼、石丸啓太、角谷大和、清水悠雅、竹本翔太、後藤一真、宮下隼人、松永翔太、佐部昊真、宮前伶郎、大貫健、津田和輝、大西俊太郎、原子治大

男子卓球

団体A 3位 伊藤隼琉、有江彰人、北野魁、大矢場健介、前田優希
男子シングルス 3位 伊藤隼琉、大矢場健介

陸上

共通4×100R 3位 北島青空、堀内花梨、宮崎なな、中島海愛
共通走高跳 1位 稲垣公生 共通砲丸投 1位 稲垣公生
共通走幅跳 2位 濱野嵩斗 1年1500m 2位 金子聡太
共通100mH 3位 堀内花梨

石川県中学校新人テニス大会 結果 団体優勝! 北信越大会出場!

硬式テニス

男子団体A 優勝 下内玲央斗、堀内正太、石垣康真、赤羽根達真、下内勇人
女子団体A 優勝 日向ほの花、太田光虹、河崎祐希奈、新保結菜、新保希希
前田梓菜、高森未来、南珠愛
女子個人 2位 太田光虹

第37回管打楽器ソロコンテスト予選音源審査会

予選通過 宮本よしの 本選出場決定

「アンガーマネジメント」

校長 村上 賢正

10月は、旧暦「神無月」。「かなづき」、「かみなしづき」とも呼ばれます。島根県に「出雲大社」という有名な神社がありますが、年に一度、10月には全国にいる神様がここに集まって会議を開いたという説があり、そのため10月は「出雲地方以外に神様が居無くなる」として「神無月」と言われるようになったそうです。

台風が去った後、それまでの猛暑が嘘のように朝晩涼しくなり、10月に入るとめっきり秋の気配が感じられます。台風10号が本県に最接近したのが9月7日。沖縄、九州では、人々の生活に大きな影響を及ぼすほどの猛威を振るって、朝鮮半島に上陸していきました。

その後9月16日には、爽やかな秋空の下、熱中症の心配もどこへやら、無事「高中運動会」が開催することができました。特に今年は感染症対策を十分に意識しなければならず、また1学期全ての学校行事が中止・順延となったことで久しぶりに全校生徒の躍動する姿を見る機会となりました。

朝、校内放送による開会式が行われ、挨拶の中で私は全校生徒、職員にこんなお願いをしました。

「今年の運動会は、感染症対策のため学年ごとに分散し、十分な応援もできません。でも、皆さんの『運動会がしたい』という声を何とか形にしたいと先生方はいろいろ工夫し、ようやく開催にこぎつけました。そこで、今一度確認したいのは、本日の運動会がストレスをためるために行うのではなく、日頃のストレスを発散し、楽しむために行うのです。だから先生方、今日1日はできるだけ怒らないでください。そして生徒の皆さん、今日1日はできるだけ先生方を怒らせないでください。今、世の中は非常時であり、その中で開催することを十分意識し、決められたルールの中で、全員が持てる力を精一杯発揮してほしいと願っています。」

運動会が終わって、しみじみ考えてみました。先生というのは昔からよく怒る、怒るのが商売だと言われてきました。生徒もそうですが、保護者の皆様も、昔の怒られた経験が懐かしく思い出されたり、「あのやろうー！」と怒りがふつふつと湧き上がってきたり、またあの時真剣に怒ってくれたから今の私があると好意的に受け止めてくれたりと、いろいろあるのかなと思っています。私もこれまでの教師生活の中で、どれだけ多くの生徒を怒ってきたか。むしろ「怒鳴る(どなる)」といった方が適当かかもしれません。しかし、今は後悔の念に駆られることも多く、改めて人はなぜ怒る(おこる)のかを考えてみました。「怒る(おこる)」という行動は、他には「怒る(いかる)、怒鳴る(どなる)、腹が立つ、叱る(しかる)」などもよく似た表現として使われ、ウィキペディアでは次のように記載されています。

①不快なことに我慢できない気持ちを表す。腹を立てる。いかる。

②良くない行動を強くとがめる。叱る。

それでは、人はどんなときに怒るのか。まず自分以外に他者がいる場合、「他者が自分に損害を与えたとき」「他者が自分の指示に従わないとき」「他者が自分の気持ちをわかってくれないとき」「他者が良くない行動をしたとき」など人は怒りをあらわにするのかな。また自分しかない場合、「自分自身に腹が立つとき」もあるかと思えます。では、人は怒るとどんな行動を取るのか。「感情をむき出しにして大声を上げる」「声には出さないが体を使って人や物に当たる」「じっと我慢してこぶしを強く握る」などでしょうか。

ところで、昔はよく「怒鳴る(どなる)」人がいました。ただ、この人たちは意味もなく怒鳴っていたのかというと、実は「怒鳴る」ことに目的のある場合もあったようです。例えば「危険を察して『怒鳴る』ことで行動をフリーズさせ危険を回避する」「ミスをした部下を得意先であえて怒鳴り最終的には部下を守る」などです。そして、昔は世の中全体が怒られることに慣れており、その緊張感を与えることは、むしろ好意的に受け止められていた場合もあったようですが、今はその説明ではなかなか理解が難しいようです。つまり、小さい頃から怒られる体験が少なく、特に怒鳴(どな)られるとそれだけで拒否反応を示し、意欲を失ってしまいます。また、怒るのは指導者だけに限りません。人は、人間関係を構築する場合、怒る行為の多い人にはなかなか近づけないと思っています。

大切なのは「アンガーマネジメント」、すなわち怒らない技術を身に付けることです。怒らないという語弊があるかもしれませんが。できるだけ不要な怒りを無くし、怒りの表現を工夫すること、怒りをコントロールし上手に付き合うことです。怒りの8割は自己満足のために表出する不要な怒りだと言われています。したがって、残り2割の必要な怒りを正しく表出できるよう、感情をコントロールすることが大切なようです。「感情のコントロールは人生のコントロール、すなわち成功体験につながる秘訣である。」と、ある本で読みました。私も努力したいと思えます。

話は変わりますが、9月29日、東京五輪・パラリンピックの聖火リレーの日程が、改めて発表されました。本校にその聖火ランナーとして選ばれた生徒がいますので、その意気込みを紹介します。

来年、本当に走れるようになったことに感謝すると共に、高岡中学校唯一の聖火ランナーであることに誇りを持ち、精一杯走ってきます。応援よろしくお祈りします！ [3年1組 中川 玲]